

環境大臣賞（優秀賞）

街の宝物「のぞみの泉」が繋ぐもの

徳島県 鳴門教育大学附属中学校 一年 岡本 環菜

私の住む街には南小松島駅の前に『のぞみの泉』という名前の小さな水くみ場があります。小学生の頃は駅を使うことがなく、駅前にのぞみの泉という立派な水くみ場があるのを知りませんでした。しかし、中学生になると汽車通学が始まり、駅前にあんな立派な水くみ場があったんだと改めてその存在に驚きました。さらに驚いたのは、その水がどこから来ているかです。調べてみると地下二十九メートルという深い場所からくみ上げている『伏流水』だと知りました。しかも、のぞみの泉を囲んでいる岩は、勝浦川の上流にある『白亜紀』という恐竜がいた時代よりも昔の地層から運ばれてきたものだそうです。私は理科の授業で習った『水の循環』について詳しく知ることができてうれしかったです。

のぞみの泉を見ているといろんな人がやって来ます。大きなボトルを自転車にのせて、慣れた様子で水を汲んでいくおばあちゃん。部活帰りにおいしそうに水を飲む中学生。散歩の途中に飼い主さんと一緒に水を飲む犬。私が弟と水を汲みに行った時に隣にいたおばあちゃんが「この水でお茶を作ると、とてもおいしいのよ。やってごらん」と笑顔で話しかけてくれました。その笑顔を見て、私は大切なことに気づかされました。ここは喉を潤したり、水を持ち帰ったりするためだけの場所ではなく、この泉があることで普段はすれ違うだけの街の人たちが「いいお水ですね」と言葉を交わし、温かい気持ちを共有することができる。そんな、街の『心の交差点』のような役割を果たしているのだと思います。蛇口をひねるだけで当たり前のように水が出てくる生活もいけれど、わざわざ重いボトルを持って行き、のぞみの泉の水を汲んで自然の恵みがありがたくいただく。少し手間はかかるけど丁寧で豊かな暮らしが、この街にはずっと大切にされているのだと思って、心が温かくなりました。

でも、最近ニュースで世界中で水不足が起きていることや、環境汚

染で地下水が飲めなくなっている場所があることを知りました。もし、この『のぞみの泉』の水が止まってしまったら。そう考えると、胸がぎゅっと苦しくなります。山に雨が降って、その水が土の中で長い時間をかけてきれいになり、私たちの元に届く。当たり前だと思っていたことは実はとても大事に守っていかなければならないものなんだと、中学生になってやっと気づきました。『のぞみの泉』という名前には、この街の未来を受けつぐ私たち子供が、健やかに育ってほしいという願いが込められているそうです。また、『この豊かな自然を未来まで繋いでいきたい』という願いも込められているのだと地域の人が言っていました。私もこの街の人の一人として、水を大切に使うことやゴミを捨てないといった、自分にできる小さなことから始めてみようと思いました。

水は私たちの生活になくてはならない便利なものですが、時には恐ろしい姿に形を変えることがあります。普段は穏やかに流れる川も、大雨が降れば一気に水が増え、全てを飲み込むような激しい流れに変わります。のぞみの泉をきれいな水を見ていると水が持っている本当の怖さを忘れそうになりますが、自然の力は私たちの想像をこえるものです。一瞬の油断が大きな事故をおこし、大切な命を奪ってしまうことも、他人事ではありません。水は決まった形がないので、どんな姿にでもなれる自由さと、人間には止められない怖さを両方持っています。だからこそ私たちは、水の恵みに感謝するのと同じくらい、その裏側にある危険についても正しく知っておく必要があります。この街の豊かな水がこれからも安全で優しい存在であり続けるために、私は水の持つ二つの顔をしっかりと思い、水と正しく向き合っていきたいと思っています。